○山内座長 どうもこんにちは。お忙しいところ、本当に第4回議会制度研究会にお集まりいただきましてありがとうございます。明日は小学校の入学式ということで、どうやら桜も間に合いそうで、いい入学式になるんじゃないかなと思います。それぞれの立場で参加していただければありがたいかなと思います。

それでは、議会制度研究会を始めたいと思います。

まず、1番として、姉妹都市交流も含めた海外視察についてを議題といたします。資料は別添の1から3を参照していただければありがたいと思います。

前回の議論の内容と中里委員から要望があった過去における姉妹都市からの訪問団の人数について事務局に整理をさせた資料を用意しましたので、説明をしていただきます。

○星区議会事務局次長 それでは、資料1をごらんください。「姉妹都市交流を含めた海外視察について」という資料でございます。前回までの議会制度研究会での姉妹都市交流を含めた海外視察の協議における意見につきまして、正副座長のもとで次のとおり整理しております。また、当研究会に委員となっていない一人会派の意見についてもお聞きしていますので、あわせてご報告させていただきます。

まず1でございます。前回までの議会制度研究会での意見ということで、(1)が姉妹都市交流事業の実施については、大きく分けまして2つの意見がございました。その意見というのは下に黒丸で示しているとおりでございます。まず、姉妹都市交流は重要であり、実施すべきだという意見が1つでございます。もう1つが、議会としてどうするかは別として、交流先をふやすことも視野に姉妹都市交流についてゼロから議論したいというような意見が出てございました。

2つ目、(2)でございます。姉妹都市交流事業の実施形態についてということでございまして、ここでは大きく分類しますと2つに分類できます。1つ目は、姉妹都市交流にあわせ視察を行うことでよいという意見、もう1つは、姉妹都市交流のみとして視察は行わないという分類にできます。

まず1つ目の姉妹都市交流にあわせ視察を行うということの中でも幾つか議論がありました。それが小さい丸で2つ記載してございます。1つ目が、19年度の考え方を基本に、近隣都市や経由地の範囲で視察の実施も可とするということでございまして、19年度の基本というのは、議長が参加するほか、10名で議員団を結成して派遣する、こういうことで

ございます。2つ目が、議長が参加するほか、各交渉会派から代表1名、非交渉会派から1名を派遣することとして、予算の範囲において議員団の判断により視察の実施を可とするということをございまして、ただし、この場合、辞退する会派があった場合は補充しない、こういう意見でございました。

2つ目の分類ですと、姉妹都市交流のみとして視察は行わないという分類でございます。こちらでは大きく3つの意見が出てございます。1つ目が22年での考え方未満の対応とするということですので、22年度の考え方というのが、議長のほか5名を上限に議員団を結成し派遣、経由地等での視察は不可という考え方でございます。

2つ目が議長のみ参加とすると。海外視察は交流事業とは切り分けて実施するものとし、今回の海外視察は厳しい財政状況を踏まえ自粛するという考え方です。

3つ目が、議長のみが参加するものとし、その他の議員については、視察を兼ねるのであれば、政務調査費を活用して参加する。ただし、この場合、議員派遣によらないことが前提となるということでございます。

(3)としてその他の意見として出ていたのがこの3つの◆印でございます。1つ目が、航空機の座席クラスについては、アップパーエコノミーだと長時間の移動が大変だったという経験があると。経費のあり方を含めて十分に検討する必要があるのではないかという意見でした。

もう1つ、旅費等の経費については極力縮減すると。3つ目として今回の議論の結果は今期を通じての取り扱いとするということをございまして。

大きい2です。これが一人会派の意見ということでございますので、虹の上川議員よりいただいています。世田谷区議会として姉妹都市実施は重要であると考えて。前回同様議員団を結成すべきということをございまして。視察することについては、行程が膨らまない限り視察の実施を否定するものではない、こういう意見でございまして、他の方からは特に意見はいただいているということをございまして。

次に、資料の3を説明させていただきたいと思えます。この資料2につきましては前回の資料ですので、この説明は割愛させていただきます。

資料3でございます。これは前回中里委員よりお話のあった姉妹都市関係者による訪問の経過について、これは14年の、前々回のバンバリーから調べさせていただきました。1がメンバー、2が経費ということでございます。

まずメンバーです。14年にバンバリーが来た際は、訪問団は11名、その中で議員は1名

です。市長夫妻、行政最高責任者、その他という形で来られています。15年はドゥブリング区長が来たときですが、これは22名で来られていまして、区長夫妻、区議会議員7人、家族、その他というような形になっています。19年がバンバリー市長が見えた場合は5名で来られています。21年はドゥブリング区長が14名で来られたということでございます。

経費につきましては、これは所管を通じで確認したのですが、やはりなかなか明確なことは確認がとれていません。ただ、公費負担で来たケースもありますが、私費負担で訪問した例が多いようだというぐらいの状況を確認できたものです。

○山内座長 ただいま資料の説明がありましたが、まず資料1の姉妹都市交流事業の実施について議論していきたいと思います。前回の議論では、この資料の記載のとおり、2つの意見が出されておりますが、大方の意見は、派遣人数等の実施形態は別として、姉妹都市交流は重要であり実施すべきというものでありました。また、交流先をふやすことも視野に姉妹都市交流についてゼロから議論したいというお話も前回の議研で中村委員からあったと思います。こちらの中村委員からの意見についてですが、交流先をふやすことも視野になど大きな課題を含んでおり、正副座長としては時間的に制約のある今回の検討とは一たんちょっとおいておいてもらって、申しわけないですけども、引き続き今後も検討していく課題として整理していったらいかがかと思っておりますけれども、いかがですか。

○中村委員 今回の問題というのは、姉妹都市交流で今決まっているところに行くか行かないかという時間的なものもあるでしょうから、それはもう切り分けて議論をしていただければと思います。

○山内座長 それでは、姉妹都市交流事業の実施については、先ほど次長が説明したとおり、派遣人数等は後で協議することとして、まずここでは、姉妹都市交流は重要であり、実施すべしとすることでいかがでしょうか。

○あべ委員 予算委員会も終わったばかりですから、各会派でいろんな意見も出ましたけれども、世田谷区としては財政状況が厳しいという認識ですよね。これは共通の認識ですよ。それで、一般会計に反対したり特別会計に反対した会派もあるという中で、財政的な問題を抜きにこの問題を私は語れないと思うんですね。区民はやはり財政的に世田谷区は厳しい厳しいと議会も行政も言っている中で、この姉妹都市交流の派遣を今年度やらなくてはならないという理由が私はわからない。ですから、その点について財政的な手当てを、これは例えば議員が10人行く、それに議長とか行政側も含めて行くということになれば、何千万単位という形になると思うんですけども、だって、1人普通80万とかそうい

う予算を組んでいるんでしょう。1000万単位だと思いますけれども、この予算を――予算は通ったばかりですけれども、議会費として予算は通っていますけれども、少なからず我々は議会人として少しでも行政のコストを削減しようということを提言してきているわけですから、その点しっかり留意をしてこの議論も進めていただきたいと思いますけれども、座長、この点はいかがお考えですか。

○山内座長 座長としては、今、海外視察も含めてのお話を進めていくということは前回から話は進んでおりますので粛々と進めていこうかと考えております。

○あべ委員 私が申し上げているのは世田谷区の財政との絡みの問題でありまして、財政的な問題として大変何十億円足りないというようなことで予算編成をしてきたという経緯もあって、なぜことしこの議員に派遣をしなくてはならないのか、そういう議論というのはまず前提に僕はあるべきだと思うんですね。派遣ありきとか、もちろん姉妹都市交流は大変重要な事業でもありますし、私も委員会等で今後の日本の将来的な戦略も考えて、世田谷区もアジア等の国々と姉妹都市交流を締結していくべきだという提言もしておりますけれども、事財政の問題となりますと、やっぱり短期的な見地で考えれば、しっかり議論をしていただきたいと思いますと思うんです。

それで、前に縮減したり何かしているというのは財政的な問題ももちろん含めて人数を減らしたりしてきている経緯があると思うんです。ことしは財政的にも予算編成の段階で50億円でしたか、それで、各所管にそれぞれ縮減を申し入れて、それぞれ各部ごとに財政的な縮小を見ながら予算編成をしてきたという経緯があって、私も議会事務局にもいろいろお話を伺いましたけれども、議会費に関してはいわゆる縮減ということの考え方はなかったのかというお話をしましたけれども、今般議員年金等の負担金の問題等もあって、勢い区の財政等にかんがみて、議会費の縮減には直接的には結びついてこなかったというような報告を受けておりますけれども、事この経費ということに関して考えるのであれば、この議会費の中の姉妹都市交流に関しては一たんちょっと棚上げにさせていただいて検討を初めから、中村委員も言われたように、今後の姉妹都市交流のあり方等も含めてしっかり議論していただいて、経費等の問題、負担等の問題、すべてかんがみて検討していただきたいと思います私は思っております。

○山内座長 座長としての思いですが、前回の話し合いにおきまして海外施設を含めた姉妹都市交流について議題とし進めていくということでお話をしております。また、いろいろな事情があることも前回もわかっていたことでありまして、それはわかっていたときに

その話が出てきておりません。ただ、いろいろな問題が出されているのは確かであります。そこで、座長としては、その議題についてとめるということは今のところできませんので、皆様方に話を進めていただいて、その中で決めていきたいと座長の立場としては思います。

○あべ委員 今、座長の申されたことに関して認識の違いがあるので私は申し上げておきますけれども、前回のこの議会制度研究会が行われたときにもその財政的な問題に関しては認識があったとおっしゃいましたけれども、それは予算委員会を通じて初めてその議論はなされてきたわけだし、各会派の意見とかそういうことは予算委員会を通じて我々はわかったわけであって、その時点で各会派が予算に関してどういうふうに思われているのか、そして会派の予算に対する態度であったり、そういうことはその時点ではわからなかったということは事実ではないですか。ですから、今、予算委員会が終わって、予算も通りましたけれども、ただ、世田谷区の財政事情が悪いということは各会派一致した見解であると思うんですね。それで、区長から依命があって、各部が財政的に縮小したというような状況があって何とか予算編成にこぎつけたというような事情があって、しかも、議会費は削られていないというような状況の中で、我々の今後の世田谷区政に対する態度としてどういうふうなことを表明していったらいいのか、これは1つの行事としてやっていくのであるから、粛々とその日程に沿って支出をしていきたいと思いますということなのか、それともやっぱり区財政が厳しいという状況の中で、我々もそれに対応して検討を再度していくという考えなのか、その点は我々議会全体としての問題として区民に問われると思うんですね。その辺はあやふやにしないでしっかり議論していただきたいと思います。

○下山委員 あべ委員のご意見も確かに今の状況を考えると大切なご意見だとは思いますが、あべ委員と座長のやりとりではなくて、やはり委員全員の意見を聞いていただきたいというのが1点。

それから、やはり姉妹都市交流というのは非常に大切なものだということは、今回だけではなくて前回からの、いわゆる海外の視察ではなくて、姉妹都市交流を検討した委員会もありましたけれども、そこでももう確認されていまして、やはりこの姉妹都市交流というのは継続性も非常に大切ですし、その時々財政をきちっと考えることは重要だと思いますけれども、その中であつても継続性であるとかお互いの立場を認め合うとか、できる範囲でやれるという1つのスタンスはあっていいと思いますので、私はこれは一つ進める方向で考えていきたいと思っております。

○あべ委員 進めるというのは、これから議論の中で、いわゆる経費の問題とかそれは別に検討するという認識でいいんですよね。姉妹都市交流は、今、下山委員がおっしゃったように継続性もあるし、区の政策としては海外交流は重要な位置を占めているので、それを財政状況に応じて変動するということがないように継続性を持たせたいということは私も理解ができるんですけども、事議員団派遣に関する人数であったり何とかということでは今回の姉妹都市交流に関する経費に関しては大変重要な課題でもありますから、例えば、私も主張しております、行政の側から区長が行くとか、議会からは議長だけでいいんじゃないかとかというような議論はこれから経費に関してはするということですね。人数に関してとかはまだお話ししていないわけだから、実施をするのかどうかということだけの1点でお話をされているということでもいいんですよね。

○山内座長 現在の状況ではそのとおりだと思います。

○あべ委員 ですから、その話を、例えば今実施をするかどうかということに対することを決するにしても、今後の人数、経費のことを決するにしても、前提となるのは、区の財政の問題であったり予算委員会で各会派がおっしゃったことであったり、そのことも含めてトータルで判断をしていただきたいと思う次第です。

○山内座長 それでは、あべ委員のご意見としてお伺いしておきまして、それでは、姉妹都市交流は……。

○羽田委員 あべ委員の言っていることもよくわかるんですけども、要するに財政状況が悪いということについては前回もそれはそれで認識をしてこの会議は進められてきたわけですよね。その際にうちの桜井委員からも申し上げましたけれども、そういう中であって今日の姉妹都市交流の意義は我々として確認すべきだということを申し上げたと思うんです。それは言うまでもなく3・11の災害が発生して、世界的にもいろんな意味で支援をいただいたらとか、それから原子力発電所の事故が起きて、それがもちろん日本の中の影響もありましたけれども、それも全世界的な課題にもなったわけです。

ですから、そういうことを受けとめるなら、むしろ世田谷からしっかり発信をしていこうということを申し上げたと思うんです。ですから、今回の姉妹都市交流というのはそういう意味でも非常に重要な意味を持っているということをもまず我々は認識しながら、その上でこの次の段階の人数だとか経費のあり方を議論すべきではないかという判断なんです。

○高橋委員 今は姉妹都市交流事業の実施についてということですよ。その経費の問題

とかというのは次の問題ですね。そういう意味では姉妹都市交流は重要であり実施すべきだという意見は前回させていただいたんですけれども、その確認ということですよ。だから、それは前回もお話ししたとおり、今、羽田さんもお話がありましたけれども、3・11以降の状況を考えると、もう1度きちっとさまざまな交流先との新たな交流を考えていかなければいけないんじゃないのということだと思っておりますので、そういう意味では大事にしていかなきゃいけない、議会としても今やっている3つの姉妹都市との交流というのは重要視すべきだと思っております。

○大庭委員 姉妹都市交流というのが今議題ですよ。姉妹都市交流というのが、いわゆる飛行機に乗ってあっちに行くとかということだけに限られることというのはどうなんですか。姉妹都市交流というのは、交流ですから、いろんな形の、昔はインターネットもなければ、いろんな形での交通アクセスの問題とか、または政治状況でいろいろ体制が違う国が近々にあったりとかといろいろあったんでしょうけれども、今相当交流の形も変わってきているし、行かなくなっちゃって行ける交流だって当然あり得るわけで、何か交流イコール飛行機に乗ってあっちに行って握手して懇談とか、歓談とか、ごあいさつをするということをやったりやられたりとか、お互い交換するというのはどうなんですか。本当にそういうことだけしか交流は図られないのか。またそれをすれば本当に交流が図られたのか。

僕は、予算は予算として交流のあり方というのはもっと多角的に考える時期に来ているんじゃないのかなと、行くだけが本当に交流なんですか。僕は一回も視察も含めて海外のほうには参加しなかったと、主義主張としてしなかったわけですがけれども、その面から見ていて、では、来てもらう、行って聞くということだけが行事のようになって、その行事を行うことが交流をしているようになっていて、実際それが本当の意味での交流、当然議員というのは任期が4年しかないですから、20年、30年とか都市と都市の交流というのはもっと長い期間ですから、議員の任期よりも長い交流の期間になるんでしょうけれども、どうなんですか、交流とは何か、今ある交流の仕方とはどうなのかということも考えなく、要するに飛行機に乗って行ってとにかく相手に会うということだけを交流というふうに狭義の、狭い意味でとらえるということ自体はどうなんですか。僕はその辺は、せっかくこういう議論をするというところであるならば、最初から行くとか行かないとかというところだけが交流の本質みたいな形で議論するというのはどうなんですか、せっかく議論があるとすれば、いろんな形の交流があり得るんじゃないかという可

能性も探ってみるのもいいんじゃないか。時間の制約があるからちょっとどうなのかわかりませんが、僕はそう思います。

○あべ委員 今議論しているのは、そもそも議員を派遣するかどうかという話だったんだけれども、今、大庭委員のほうからそういうお話がありましたから私もついでもちょっとお話しさせていただきますけれども、今、大庭委員が言われたことには私は大賛成なんです。現実、ちょっと今お話があったように、例えば交流事業でインターネット等を活用してそれぞれ親交を深めるというようなことも、恐らく皆さんもNHKでやっている、教育テレビですか、アムラという番組を見た方はいらっしゃると思うんですけれども、ああいうようなことで、これはインターネットを通じてインターネット通信で顔を見ながらお話をしたりとかというようなことができるようなことをやっているものですが、ああいうことを通じて交流を深めるということも可能ですし、いろいろ今の時代に合った考え方をしていくということも大事でしょうし、今までは旧来の交流事業のあり方そのものも、期も変わりましたし、改めて新しいメンバーで交流事業を継続していく中でどういう方式をとっていくのかということも議論の素材にしていくことは私は大変大事なことだと思うんです。まさに交流事業がサステイナブルに実施をされていくという中で、自治体の財政が大変厳しい、その厳しい中でも事業そのものを継続させていくのにはどうしたらいいんだということで我々議員がやはり知恵を絞って、お金のかからない、新しい方式による交流事業も検討の素材にすべきだと思います。そういう点では大庭委員の言われたことには大賛成でありますし、この検討会でも大いに議論していただきたいと思うわけです。

○下山委員 確かに今大庭委員の言われることも、本当に最近のいろいろなそういった通信手段の発展であるとか、そのようなことで新たなそういった方策もあると思うんです。でも、一方で国際的な航空機の旅客数なんていうのは年々増加しているということは、やはり本質的には、仕事の取引であっても、友達づき合いであっても、要するに人と人が直接会うということが私たち人間の一つのあり方の基本だと思うんです。ですから、それは基本としてやはり姉妹都市交流、これはまさに姉妹都市なんですから、行ってみれば家族とおつき合いのようなわけですから、もちろんそういうことは新しいやり方も確かに補足というか、そういったものをどんどんふやしていかなければいけない、もっと密度を濃くする1つの手段ではあると思うんですけれども、やはり行ってくる、また来ていただくという基本的なものは私は重要なものであると考えますので、実施するということが私は姉妹都市交流の基本だと思います。

○高久委員 私も今下山委員がおっしゃられたとおりだと思うんですけども、いろいろ交流、私は実際姉妹都市交流に行ったことはないんですけども、交流事業といっても、そもそもウィニペグ市なんかでは、昭和35年、児童生徒の絵画の交換をきっかけに姉妹都市交流が始まったということで、子どもたちの絵画の交流から始まったということで、やっぱりそういう子どもたちの絵画の交流からいろんな交流のやり方は当然あるし、大事だと思うんですけども、やはりしっかり向こうとあって面談していくというのは非常に姉妹都市交流の中では必要であると私は認識しておりますので、向こうからこちらに来たとき、またこちらから向うへ行ったときもしっかり面と向って姉妹都市の交流という意味で対話をしていくということが大きくきずなを深めることであつたり文化交流の意義づけじゃないかなと私は思っておりますので、ぜひともやはりこれは進めるべきだと思っております。

○中里委員 姉妹都市との交流事業ということで、中学生がお互いホームステイしたりしていますけれども、ああいうのは貴重な体験だなと思っておりますけれども、5年に1回の式典のために議員団をわざわざ派遣するののかということであれば、大庭委員が言ったようなさまざまな新しいやり方、そういうのも非常におもしろい提起だと思います。従来どおりにぞろぞろ行く。私はもともと最小限議長だけ派遣するようなことだという主張はしていますけれども、そういう新しいネットを使ってだとか5年に1度の調印のときだけじゃなくて、もっと違ういろんなイベントなどお金をかけずにやれるような研究をしていくかどうか、そういうのは非常におもしろい提案だと思います。

○中村委員 今、大庭さんから出た提案も含めてなんですけれども、行くのか行かないのか、それは実施形態のほうに話が入っていると思うんですが、この議論の流れはどうとらえたらいいんですか。実施すること、交流はしましよと、それはどういう形かは別としてということを決めてからという議論を今回するのか、それとも、今形態に結構入っちゃっているのか、それに対してご意見を次のステップに行っているのか、ちょっとそこがいまいち僕個人としては理解できていないなと。

○山内座長 座長としては、どうすべきかを今議論しているわけで、形態については後ほど議論する予定にはしていたんですが、だんだん中に入り込んでいっちゃったというのが現状です。

それでは、姉妹都市交流は前回までは重要であり、実施すべきということのお話が大勢を占めていたということなので、そのように決定し、次の内容に入っていきたいと思いま

すけれども、いかがでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○山内座長 では、そのとおりにさせていただきます。

続いて、2、姉妹都市交流事業の実施形態について協議していきたいと思います。前回の議論では、資料に記載のとおり、姉妹都市交流にあわせ視察も行うことでよい、姉妹都市交流のみとし、視察は行わないと2つの意見に分かれ、さらにそれぞれの項目の中でも意見の違いがございました。そこで、前回の議論を踏まえ、各会派に持ち帰って議論されてきたと思いますので、各会派のお考えをここでお聞きしたいと思います。

○高橋委員 前回もお話したとおり、姉妹都市交流にあわせて視察を行ったほうがいいのではないかとというのが私たちの大方の全員の意見です。

最初の話にも少し戻りますけれども、海外との交流を進めていくとともに、地球規模で起こっている災害ですから、そういう災害に対しての備えとか、また原発に依存しない新しいエネルギーの活用方法だとか、そういったことはやはり海外でも学ぶべきことが多いかなとも思っているのです、そういう意味では、前回のときもお話したとおり、3・11以降の視察のあり方、また、海外の姉妹都市交流のあり方も、区議会にとって、世田谷区にとって、私たち議員が率先して学びに行くというようなテーマを持っていくことは非常に大事だろうと思っていますので、そういう意味では、視察もそういったテーマをしっかりと決めてやるべきだと思いますし、また、人数もここに書いてあるとおり、19年度の考え方を基本としてきちっと礼を尽くすという意味でも議員団を10名で結成して行くというふうには私たちは考えております。

○あべ委員 議論は1つ進んだわけですがけれども、姉妹都市交流は実施をするということですよ。今、高橋委員から出た話は姉妹都市交流と視察を一緒にやるという話に行ってしまうんですけれども、私のほうは、議事の進め方からいって、まずは姉妹都市交流をやるというのであれば、姉妹都市交流をどういう方法でやるんですかという議論をまず進めていただきたい。その後で視察に関してはどうするのかという議論になっていけばいいわけで、初めから視察と姉妹都市交流を同時並行でやるんですよという話には私はちょっとならないんじゃないのかなと、議論の進め方からすれば、まずは姉妹都市交流をどういう形で、経費はどれぐらいで、メンバーはどういう構成でやるのか、その上でそれにプラスアルファ視察というものを組み入れていくのか、それは次の議論であって、まずは姉妹都市交流をどうするのかというふうな話の進め方をさせていただきたいと思うんです

が、座長、いかがですか。

○山内座長 私は姉妹都市交流事業の実施形態について協議していただきたいとお話ししましたので、高橋委員の答えたとおりで私は構わないと思います。ただ、各会派に帰ってお話しなされていると思いますので、そのとおり進めていきたいと思います。

○大庭委員 議論が行ったり来たりというか、仕切るといっても、その仕切りにはまる議論かどうかというのはなかなか難しいんですけれども、姉妹都市交流というのは、僕がさっき言ったのは、いわゆる飛行機に乗って行って、お互い顔を見て話をするということだけに交流の本質が形骸化されているんじゃないかということ僕を言っただけ、そういう交流のあり方というのが、それは議員個人としては貴重な経験として残るのかもしれないけれども、議員というのは任期が限られているから、必ずしもそれが永続性というか、議会の中で永続性があるのかなということを疑問として差し挟んだわけなんですけれども、先ほど下山委員から、姉妹都市となると家族だという例えがあったんですけれども、そういうことからすると、例えばこの姉妹都市交流、申しわけないんですけれども、僕は行っていないのでわからないという立場で申し上げたいんですけれども、例えば今ヨーロッパというのは、ヨーロッパでもカナダでもいいんですけれども、ヨーロッパのドゥブリングとかそういうことでいくと、今、欧州は財政危機ですよね。財政危機で、例えばそういうようなことで世田谷区と何か交流があるとかという実態はあるのかとか、例えば去年の3・11以後に関して世田谷区に対して姉妹都市からどうですか、元気ですか、やっていますか、原発は大丈夫なんですかみたいな意見交流というか、あいさつとか、そういう交流があるということであるならば、さっき言ったうるわしき家族みたいなものにはなるんだろうけれども、そういうのを余り聞いたことがないし、では、欧州で、ヨーロッパで今ギリシャがこうなっていると、オーストリアもこうなっちゃって大変だよとか、または円高でオーストラリアとの関係でどうだこうだとか、資源の問題でどうだこうだとか、またはカナダとの関係でアメリカの大統領選挙はこうなっちゃって、それこそT P Pの問題でどうなのかとかいうような、もし家族なり友人なり知り合いだったら、我々は地方議会ですから国政政治とは多少違いますけれども、我々の問題、今問題になっているのは消費税の問題だとか、欧州では消費税はどうなっているの、カナダではどうなっているの、オーストラリアではどうなっているのとか、そういうような、もし友達とか友人とか家族であれば、我々が日本における地方議会としても関心のあるようなものを交流しているということが何もないとすれば、要するに議会としての交流の実態というのは何なのかなという感じは

するんですよ。

僕が言っているのは、できれば、現状の財政難ということは当然ありますね。そういう主張は我々もしておりますから、従来の海外視察、海外交流のあり方、姉妹都市交流のあり方を縮減する方向でいきたいと我々は考えているんですよ。ただ、できればやめるといふことも視野に入れるということも必要だと思うんですけども、これは儀礼的な部分があって、礼儀というものがあるわけですから、それはやめるに当たっては、例えば今回行って、今後の交流のあり方をこういうふうに変えませんかというような提案をして相手との合意がなければ、その交流のあり方も変えられないと思うんです。ですから、いきなりここでばちと切ることはできないからこそ、さっき言ったように交流のあり方をもう1回考えて、そういう形でこういう案を持って次からはこうしたいんですけどもみたいな形でやるというのが本当の交流のあり方なんじゃないかなということ、我が議会のほうでも、交流のあり方、例えば羽田委員が言われたように、今、日本という国が世界で注目されているわけですよ。特に福島原発の問題で、海外から見ると、日本と福島はどれほど違うのかわからないぐらいわからない人が多いだろうから、例えばそういう意味からすると、メッセージを送る必要はあるだろうと思うんですよ。とすれば、例えば今度行ったところの姉妹都市交流のところでの現地の新聞に我々の予算で意見広告を出すとか、何かそういうアピールをすとかという役割も、予算が幾らかかるかわかりませんよ。いろんな交流のあり方とかアピールの仕方とかは考えられるんじゃないかなということ、先ほど申し上げて、それをただ、前回と同じような形で飛行機に乗って行くというだけで果たしていいのかなと。日本の世界から見られている役割というのは随分違うし、我々はそのうちの一部の日本人として、世田谷区民として姉妹都市の住民の皆さんに対してのアピールをいろんな形でできるんじゃないかという研究をすべきじゃないかなと。基本は要するに従来より縮減という方向でやっていきたいと。できればゼロにしたいけれども、それは現実的じゃないだろうからということ。それは前回言ったとおりです。

○山内座長 少なくとも先日ウィニペグから来た子どもたちは日本のことを心配したメッセージをいただきました。また、それに対して議長はお礼のあいさつをなさっていると思います。

○あべ委員 姉妹都市交流の羽田委員が言われたような内容も含めて情報発信の話とかがございましたけれども、姉妹都市交流事業というのが日本の自治体において1つの大きな事業としてやっているということで、例えばオーストリアのウィーン市に限って言えば、

何もドゥブリング区に限ったことではなくて、ほとんどの区が世田谷と同じような日本の自治体と姉妹都市交流を結んで交流をされているという実態を皆さんご存じだと思うんですけども、たくさん自治体がウイーン市と交流をされているのは現実です。たまたま世田谷区はドゥブリング区と結んでおりますけれども、向こうも何区かありますけれども、ほとんどの区が日本の地方自治体と交流事業をされているという実態を皆さん議員さんですからご存じだと思いますけれども、世田谷区一つが情報発信をしていくということではなくて、それぞれ自治体で交流事業をやっているところがそれぞれの責任において情報発信をされていくんだと私は思いますけれども、それだけが正義のようにお話をされるというのは私はちょっと違うんじゃないかなと思うんですね。もちろん今の3・11以降の日本の状況なり何なりということを世界に発信していくということは必要でありますけれども、その自治体の交流事業の中でそれが正当性があることだということでお話をされるのは私はちょっと違うのかなと思うんですね。それぞれの自治体さんがいろんな形で交流事業をされているという中で、それぞれの自治体の状況に応じて、それぞれの自治体が自分たちの事業に関してそれぞれの年度でどういうふうな交流事業をやるのかということは、まさに自治体が決める話でありますから、初めに申し上げましたように、財政の問題とかいろいろありますから、そういうことを総合的に勘案をして考えなくてはならないということだと思っております。

それと、先ほど私は申し上げましたけれども、視察と交流事業を分けて話をしていただきたい。座長の進め方もそういうふうにしていただきたいと要望しておきます。

○羽田委員 先ほど大庭委員が言われたことと関連するんですけども、交流内容については私も工夫は必要だと思うんです。その際、これまでももちろんやってこなかったわけではないんですけども、事前の勉強会とか今の情勢というか、状況などもしっかり認識をするという、団編成をしてからということになるかと思っておりますけれども、それはそれで前提に考えていったらどうかということが1つですよね。

それからもう1つは、帰ってきてからの事後報告なんですけれども、これはこの間はたしか文章でまとめられてきたと思っておりますけれども、報告会みたいなことができれば一番いいと思うんですね。そういう意味では非常に交流自体の工夫と実際に見たり聞いてきたりしたことの内容についての報告がセットで行われていく必要があるのではないか、そのことを通じてまたより深まっていきますよね。交流自体もそうでしょうし。それから、言われているようなもっと広い意味での経済だとか社会がどうなっているのかみたいな、そ

のことも改めて認識することになるのではないかと思うんです。とりあえずそこまでしか今言いませんけれども、あとは具体的な中身はあれですけれども。

○中里委員 先ほど来財政の状況という話が出ていましたけれども、今回の予算議会の中でも、私たちは区民税、税収が減っていると、それはやっぱり区民生活が相当厳しくなっていることの反映であって、そういう中で区民に対する手だてが弱いということで反対しましたけれども、やっぱりそういう経済の情勢であるとか、区財政については、我々はそんな危機的な状況だという認識ではありませんけれども、税収は減っていて豊かとはとても言えないというのは言えると思うんですね。そういう中で、やはり今の経済状況、財政状況の中でこの姉妹都市交流の部分についてもできるだけ絞っていくというのは当然のことかなと思います。

たしか前回の議論で議員団の派遣というところで、私は議長が行けばいいんじゃないかと、議員団が行かなきゃやっぱり失礼じゃないかと、そんなやりとりがあったと思うんですけれども、それはきょう資料も出ていますけれども、15年のドゥブリングは区議会議員が7名来ていますけれども、ほかは見てみますと、区議会議員1人とか、そういうのもありますよね。ですから、決して議長派遣だけで失礼に当たるとか、そういうことではないんじゃないかなと。きょういただいた資料はそのことを物語っているんじゃないかと私は思うんです。

ですから、従来主張と同じではありますけれども、姉妹都市交流はできるだけ簡素にということで、議会からは議長の派遣ということでいいんじゃないかなと私は思います。

○山口委員 持ち帰ってきた結果ですけれども、一応自民党・新風としては姉妹都市交流は重要であるので実施すべきだということです。その行うことによって、例えば近隣都市ですとかそういった必要なテーマがあれば、視察というものも行っていいんじゃないかということです。人数に関しては、前回も申しあげましたけれども、19年度と同じ10名を基本に考えていくということです。

○中村委員 前回の宿題というか、持って帰ってということに対してお話ししたいと思いますが、海外姉妹都市交流に関しては賛成です。議員ということ言えば、経済状況も含めて形態に関してはいろいろあると思いますけれども、要するに海外の姉妹都市、僕は今回は切り分けましたけれども、それをふやすということも含めて国際的な関係を持っていくということはこれからやっていかなきゃいけないことだと思っています。それに関しては、財政の話も出ていますけれども、お金をけちって国際協力というか、関係に影響があ

るようではいけないというのが基本的なスタンスであります。ただ、同時に議員特権と言われかねないようなシステムは、もちろん財政が厳しいから厳しくないからということ以前の問題だと思えますけれども、そこは1つの考え方としてあります。

視察に関してですけれども、やっぱり視察というのは、何かを見に行つて、それを区に持って帰つてきて世田谷区がよくなるということが最終目標だと思うんです。また、結局この姉妹都市をふやすということに話は変わっちゃうんですけれども、結局毎回姉妹都市、今3つあるところに行つて視察をしても同じことだろうし、仮にテーマが違ふにしても、その都市、その国に偏つた意見、持って帰ってくるにしてもその国のことしか持って帰つてこれないので、やはりそこは世界じゅうというか、もし本当に視察をしていくのであれば、いろんな視点で本当に姉妹都市に限らずしていかなきゃいけないんだろうなとは思っています。

いずれにしても、そういう状況を踏まえても、現状、視察に関しては財政も厳しいですし、姉妹都市交流と切り分けもできるわけでもないでしょうし、るる述べてきたような理由の中で姉妹都市で視察を行うということに関しての世田谷区にとってのメリットもやっぱり現時点では会派としては薄いのではないかと考えていますので、海外姉妹都市交流にあわせ視察も行うか、視察は行わずに姉妹都市交流のみとするかということであれば、姉妹都市交流のみとするというのが会派の考えであります。

○桜井委員 先ほど羽田さんからは考え方を言ったので、人数とかそういうことを補足します。

これまで平成19年の考え方という示し方もほかの会派からはされていますけれども、いろいろな形態で交流はしてきたと思いますが、今期ということで考えますと、議員団をどういうふうにつくるかということだと思います。前回は申し上げましたけれども、私たちの世田谷区議会がさまざまな考え方の会派から成り立っているということは私は海外に対して発信していきたいと私たち会派は思っています。

ということで、各会派から代表を1人ずつ出すということが基本になると考えています。非交渉会派からも1人派遣をしていただければと思いますし、あと議長は全体の代表ということですので別ということで、それを基本にして考えていきたいなということです。

視察に関しては、議員団の中で状況も踏まえてさまざまなテーマが出されれば、そのテーマに応じて視察していくということも私たちはありだと思っておりますし、その際には、

先ほど羽田さんも言いましたけれども、この姉妹都市交流と視察をすることの意義と現状や影響してくること、そのことを議会全体で、世田谷区の区民の財産としても共有ができるように勉強会や報告会を広く開いてやっていく必要があるだろうということも考え方の1つとしてプラスしていきたいと思います。基本的にはそういう考え方です。

○大庭委員 交流というのが、当然さっき会わなくても交流というのはあるんじゃないかということをやったんですけれども、では、会って交流するというのが交流の1つの要素だとすれば、会って交流ですよ。人間と人間が交流するといった場合というのは、しゃくし定規なつき合い方が果たして交流になるかという問題もあると思うんです。

何が言いたいかということ、あいさつを交わしたりいろんなお話をしたり、でも、人間ですから、食べたり飲んだり、または一緒に遊んだりというようなことが人間の中にはいろいろあるんじゃないか、自由な意見を言ったりいろんなことを通じて交流は深まるんだということだとすれば、果たして議長の議員派遣命令で、議員派遣命令ということの中に、遊んで交流を深めてこいという命令は多分無理だと思うんです。でも、人間というのは、交流というのは、遊びというか、遊びの意味はちょっと中途半端で申しわけないけれども、ともに遊ぶということを通じて交流が深まるんじゃないかということから考えると、やはり公費で行くということはどうなんだろうなということ、果たしてそれで行くのが本当に、つまり公費で行くことが本当に交流が深まるのか、それとも公費で行かないほうが交流が深まるとすれば、果たして交流というものをメインに考えたときにどっちがいいのかなということには僕は1つは問題だと思うんです。

というのは、何が言いたいかということ、今度宮古島へ行かれますよね。みんな自分たちのお金を積み立てて自費で行くわけですよ。ですから、それは別に議長からの派遣命令で、視察命令で行っていくわけじゃないじゃないですか。それから考えると、やはり本当の交流というのは、自分たちのお金で行って、しかもある意味その土地でお金を使うことなんです。そこで消費をするということが交流だし、遊んでお金を落とすことでもいいし、観光することでもいいし、物を買ってくることでもいいし、1つの交流というのは経済的な意味だけじゃないですけれども、やっぱりそこにお金をどれだけ落とせるかということが交流の深さにも若干つながってくるんじゃないかと思うと、僕は、最初の段階で、交流の入り口の段階ではある程度しゃくし定規なことからは始まるのかもしれないけれども、一定年限たって何十年もたってくると、むしろそういう公費で行くことのほうが本当に交流が深まるのかどうか、むしろみんなでお金を積み立てて自費でどんどん行ってじゃ

んじゃん買う人は買うし、見る人は見てくるし、遊んでくる人は遊んでくるし、議論する人は議論するしといったほうが交流の本質に近づいているんじゃないかなという感じはします。本当に公費で行くことのほうが交流が深まるのか、それとも自腹で行ったほうが現地との交流は深まるのかどうかという議論を、かなり横にずれているのか、確かなことを言っているのか僕はよくわからないんだけど、交流ということを実際に考えるんだしたら、公費で行くべきかどうかという議論はやっぱりあるんじゃないのかなという感じはしますよね。ちょっと補足的な形なんですけれども。

○下山委員 今のご意見は、申しわけないけれども、私は率直に言ってしまえば、横にずれていると思うんですよ。やっぱり姉妹都市の世田谷区として今議論しているわけですから、確かに行って、今、大庭委員が言われるように、人間対人間の本当のいろいろなそれぞれの生活を一緒に行うみたいなのはもちろん大切だと思いますけれども、それはそれで非常に重要なことだと思いますけれども、今のここでの話し合いはやはりあくまでも姉妹都市としてのあり方ということで考えていくべきじゃないかなと思います。

○あべ委員 今は海外姉妹都市交流に関して行く行かないということに関する意見ということによろしいんですか。順番に意見を述べてきたじゃないですか。

○山内座長 持ち帰っていただいて、その内容をここでお話しただいています。

○あべ委員 それでは、私のほうは、会派の意見として申し上げさせていただくのは、百歩譲って姉妹都市交流が継続性も大事ですし、今までの歴史も考えて途絶えるようなことがあってはならないわけですから、交流事業そのものに関しては百歩譲ってやるべきだと思います。ただ、人員とかどれぐらいの人数を派遣してどういう規模でやって何日間いるのかということとはまた別の議論だと思うんです。私は、前回も申し上げましたとおり、議会としては議長を派遣して、行政の側からは区長が行けばいいというのが私の意見です。

今、財政的に大変厳しい中で、1人頭予算をとっているのは約80万円ですか、確認しますけれども。

○星区議会事務局次長 予算は1人当たり88万円です。

○あべ委員 そうすると、1人頭88万円の海外旅行を議会として組んで、姉妹都市交流という名目で議員を海外旅行に派遣するということは、私は区民の皆さんから見れば賛同が得られる話ではないと率直に申し上げたいと思います。ですから、私は議会から代表者1名、議長、行政側から区長ということで礼を失するというのであれば、先ほど話も出まし

たが、私費で参加をされて、それこそ行ってお金をいっぱい使ってくればいいじゃないですか。ということです。

あとは視察の問題は、これはもう長いことこの議会でも議論をされてきておりますけれども、今回は特に財政上の厳しいというような状況の中ですから、視察ということと切り離していただいて姉妹都市交流に限って派遣していただきたい。どうしても視察をしたいという方がいれば、それは私費で行っていただければいいわけです。姉妹都市交流もそうです。これは私費で行っていただいて、それぞれ議員として交流事業に皆さんの役割を果たしていただくというのは大いに歓迎するところでありますから、公費負担は議会からは1名、行政から1名、88万円の海外旅行を皆さんたくさんで行くというのは私は賛同はできないということです。

○山内座長 各会派のご意見をいただきました。多少物が膨らんだという気はします。しかし、大体前回と同じようなご意見ではないかと座長は思っております。ご意見としては、姉妹都市交流にあわせ視察を行うということと、それから1つは代表を出すという、大きくその2つに集約されるのではないかなと思います。両論併記の方向でまとめていくしかないと思いますので、姉妹都市交流をあわせ視察を行うというご意見と、姉妹都市交流のみとし、視察を行わないという2つの意見で、それぞれ内容的には若干の違いもあるし、今後考えていかなければならない問題も私は含まれていると思いますが、可能な限りこれで集約していきたいと思っております。

そこでまず、姉妹都市交流にあわせて視察も行うことでよいとする会派の中で、派遣人数、視察団、参加辞退の取り扱いなどがこれから議題になると思いますが、そのことについてまとめていかなければならないと思っておりますが、自民新、公明、生ネ社により協議いただき、人数的なものをきちっとしていかなければならないと思っております。ご意見があればお伺いいたします。参考として、以前の人員の構成がありますので、資料2を見ていただければありがたいと思っております。それぞれご意見がございましたらよろしくお願ひいたします。今出された中では、自民新、公明さんが10名、それから生ネ社さんが各会派1名ということでの話をいただきました。ほかにありましたら。

○山口委員 意見が分かれているので、まず交流として議員団を組むと言っている会派と議長と区長でいいじゃないかということですよね。その2つですよ。それは両論になると思うんですけれども、それで、組もうとしているところの中の人数の調整ということでもいいんですか。

○中村委員 今、議員団を組もうというところと議長だけでいいじゃないかということですか。

○山口委員 多分意見を整理すると、視察はちょっと除いたとして。

○中村委員 そうですよ。例えば僕らは前回ベース未満だろうなという会派なんですけれども、そういった場合は議長だけということも入るわけじゃないですか。

○山口委員 じゃ、議員団を含むという含みがあるということね。

○中村委員 それでどうしたらいいんですか。どっちかに入らないんですけれども、いいですよ。どちらにも入らないということもないんですけれども、前回ベース未満だから議長だけというのもそこには入るわけですよ。

○大庭委員 議長だけでいいよ。

○中村委員 ということにしたほうがいいですか。

○桜井委員 前回というのは、実際に派遣された議員の人数と議運決定の議員団は違うじゃないですか。

○山口委員 どちらのことかな。

○桜井委員 そうしたら、それは議運決定の議員団の考え方ですよ。

○中村委員 いや、願わくば実数として、実際に行く数が前回未満だと、ふえるというのはちょっとどうなのかなということですよ。

○桜井委員 では、この議員の判断というのが各会派で判断していて、それが残ることになるんですか。

○中村委員 それは拘束はできませんよね。辞退しているからね。

○桜井委員 だから、議員団ですよ。

○山内座長 中村委員の今のご意見は、実際に実施した人数未満が望ましいということだね。桜井委員は議運で決定したほうの人数ということだね。

○桜井委員 そうです。会派です。だから、考え方は、今の会派だから、前のというのではなくて、今期の会派の代表ですよ。

○山内座長 一応姉妹都市交流をする人数ということで、生ネ社さんと自民新、それから公明党さんのご意見が違って、生ネ社さんと自民新さん、公明党さんのほうで何かお話があれば、10名に固執するのか、各会派から代表1名ずつでいいか、ということで何かご意見がありましたら。

○羽田委員 もともとの交渉会派から代表を送るという考え方、それから非交渉会派から

1名を派遣するという考え方の根底にあるものというのは、先ほど桜井委員からも申し上げましたけれども、要するに会派はそれぞれご意見とか考え方、それから活動を含めてさまざまな形態を持っているわけですよ。ですから、そういう議員をしっかりと代表として送るという考え方なんですよ。そこが大前提です。したがって、要するに団編成をした場合にどうしても団長とか出てきますよね。それから副団長ということが必要なのかな。そういうことを含めて人数的な配慮は必要なのではないかと思います。これは今まで大会派が大体自民新とか、その順にと言ったらおかしいですけども、そこで構成されていたと思いますけれども、そういう配慮は必要なのではないかと私は思います。

○あべ委員 もちろん事業の継続性とかそういうことは私も大事だと思いますし、今までの経緯もそれ相応に検討していかなくてはならないことだと思いますけれども、期も変わりましたし、この中でもいろいろ交流事業のあり方等も含めて検討すべきだという話も出ているんですから、今までのことを踏襲するばかりが交流事業の継続に当たるとは私は思いませんので、新しい形態で、それこそ議長が1人で行ってもいいだろうし、区長が1人で行ってもいいだろうし、自費で議員が議員団を組んで行ってもいいだろうし、何も今まで議員団を団長を組んでいたからとか副団長がいたからということの既成の概念にとらわれずに新しい考えでやっていただいたほうが私はいいと思います。羽田委員の話にちょっと水を差すようですけども、そのように私は考えております。

それと、航空機のことをビジネスクラスだとかアップーエコノミーだとかというようなことで料金的な問題があれだけでも、最近LCC、ローコストキャリアというものもあるから、検討の素材に入れてもらったほうがいいかなと。

○山内座長 各会派から1名ずつ、その他に正副団長を各1名、自公さんから辞退なしでオーストラリア方面の視察可能ということでまとめていく方向でいいのかな。

○中里委員 先ほどの資料で、明確ではないけれどもというのがついてはいますが、世田谷にいられている姉妹都市関係者は私費負担が多いようであるというような事務局の話もありましたし、先ほどのあべ委員の意見、私も、公費で行くのは議長で、その他の方は私費でというようなのはあり得ると思うんですね。公費による派遣で団をとということでもいいのかというのをもう1度議論する必要はあるんじゃないですか。私費での訪問というのは検討する必要はあるんじゃないですか。

○山内座長 団を組んで行くというほうのご意見で、10名、それから各会派から1名と非交渉会派から1名というお話、そして、辞退の場合は補充なしでという内容で行かれると

いうほうはまとめてよろしいですか。行くというご意見の方々はそれでまとめてよろしいですか。

○水谷書記 私もちょうと確認させていただきます。資料1に掲載している1の(2)、前回の議論をもとにまとめさせていただいたものですが、黒丸が2つございまして、1つ目の黒丸が姉妹都市交流にあわせ視察も行うことでよい、2つ目の黒丸が、姉妹都市交流のみとし、視察は行わないということで座長と相談してこの資料をつくらせていただいたんですけれども、これをもとに本日の議論をしていただいた中で、先ほど座長からは、前回持ち帰っていただいて各会派で議論した意見が前回と各会派も変わりがなかったので、議運への報告はこの両論で議研として報告するという、その確認はとれたということによろしいでしょうか。

○山内座長 はい。

○水谷書記 では、その両論で併記するという中で、まずは1つ目の丸、姉妹都市交流にあわせ視察も行うことでよいという会派が3会派、自民新さん、公明さん、生ネ社さんがございましたので、その中でも若干人数ですとかそのあたりの取り扱いの意見の違いがございましたので、そのあたりを集約した上で議運に報告をさせていただく、そのようなご理解でよろしいですか。

○山内座長 はい。

○山口委員 その集約というのは今ここでやっちゃうということ……。

○山内座長 可能であれば。それで、もう1つの意見としては、姉妹都市交流のみとし、視察は行わないというくりもあるのですが、この2つを両論併記で出すわけですから、両方をまとめておいてほしいということ。合わない話もあるわけだ。

○高橋委員 どちらでもないという人はどうすればいいの。

○中村委員 でも、合わないですよ。

○山口委員 結論は言えないけれども、うちの会派としては譲歩の可能性はありますね。それだけ言っておけばいい。

○桜井委員 そうですか。では、聞きました。

○中里委員 10と8だから。

○高橋委員 10か8かという話ですか。では、いいですか。行くほうの1つとして、僕からは10、10ということを目指しています。

○あべ委員 公明党さんは10なの。

○高橋委員 その10の内訳というのはこれから考えるんでしょうけれども、桜井さんが言われたのは各会派1名というような話でしたよね。各会派1名となると、やっぱり会派の人数というのは大分違うもので、そうすると、やっぱり1人1人の議員の人数というのも考えると、全体が50人いる議会の中で5人に1人というような考え方にしておいて、その上で会派の人数割を考えていただくというような方式をとっていただければという、今まで19年度の考え方でそういうふうにはやっていくのは公平にもなるのかなというふうに僕は思っているんで、そういう意味では羽田さんが少し譲歩したほうがいいんじゃないのという話もありましたけれども、譲歩していただければと。

○あべ委員 5人に1人が公平性があるというのはどこから出てきたの。

○羽田委員 古い話はもともとはそうですよね。できるだけ全員が行けるようにとかそういう配慮もあったし、それから大会派についてはできるだけ人数を多くしようみたいなことはあったんですけども、それは今はなかなか難しいという判断はありますよね。そのこと自体を全部適用してやるということ自体は難しいと思っているんですよ。ただ、先ほど私が申し上げたのは、各会派から代表を送るという考え方は、繰り返しになりますけれども、要するに代表性の高いものというか、だから、要するに各党でもあるし、各政治団体でもあるわけですから、それはそれでそこから1人ずつ送るというのは大前提ですよ。ただ、実際に団を編成するに当たって団長とか副団長というのは必要なことから、それは大会派から出したらいいのではないですかということなんです。

それで、人数をそこで増員すればいいじゃないですかと。だから、具体的に言うと、自民新と公明党はプラス1ずつにして2で、あとは民主党と——民主党は行かないかもしれないですけども、共産党も行かないと思いますけれども、あと、み・行も行かないと思いますけれども、あと生ネ社、これはまだわかりませんが、一応人数としては……。

○桜井委員 シンプルに1、1、1で。

○羽田委員 1、1、1でやると9人ですね。ただ、9人というのは、これは私たちの前提は崩していませんから、各会派が辞退した場合には補充しないという考え方ですから、9以下ということなんです。そういう考え方です。

○山内座長 じゃ、自民新さんは10……。

○山口委員 10なんですけれども、状況によってはちょっと譲歩する可能性もありかなと。

○山内座長 公明さん、10以下ということはありませんか……。

○高橋委員 今のところあり得ないですね。

○山内座長 では、この中身としては、交渉会派から1名、団長、副団長をプラス、また辞退した場合は補充を行わないということもあり得るとさせていただきます。

それから、姉妹都市交流のみとし、視察は行わないというもう1つの区切りというか、そちらのほうは、22年度の考えでは、議長のほか、5名を上限に議員団を結成し派遣したという例がありますので、それ以下にする、それ未満の対応にするというのがもう1つの話ですよ。

それから、議長のみ参加とすると、それからもう1つは政務調査費云々という話もありましたけれども、前回ちょっと政務調査費の件につきましては別の話ということだったので、それはなしということで、私費というのとも出ていますが、一応行わないというくくりを1つ。この2つのご意見を持ち上げさせていただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○山内座長 では、そのとおりにさせていただきます。

○大庭委員 こういう今の議論を見ていると、みんなちょっと怒るかもしれないけれども、何のために行くのかという、その目的が明確になっていないからこういうところの議論がずっと続くんじゃないかなと思うわけです。うちのほうとしては、議長だけでいいという考え方というのは、行ってしまうと、しょせん儀礼的なものではないかという見方をしているからそういう発言につながっていくわけであって、例えば国の交流みたいなものというのは、外務大臣が行くなり、または首相が行くなりしても、相手国との間に案件があるわけですよ。具体的な何か、その案件を最終的に片づけるというようなものがある。

例えば羽田委員が言われたように、各会派の代表が行くというのは、それは1つの考え方としてはあると思うんです。それはなぜかという、例えば具体的な例を挙げるのはよくわからないけれども、例えばあっちに行って何かこういうイベントをしましょう、そういうまとめ方を交渉も含めて行ったときに、世田谷区議会の議長だけじゃなくて、各会派の主張があるわけですから、相手の都市と交渉するにしても、やっぱりここは譲ったほうがいいんじゃないのとか、ここは押したほうがいいんじゃないのという各会派の意見が反映されるような場面があれば、各会派の代表が行くということは有用だと思うんだけど、儀礼的なだけで行くとすれば、要するに別に各会派が行こうが、議長が1人行こうが、別に儀礼的なものというのは、人数の違いはあるかもしれないけれども、そこで各会

派の意向がどう変わるというものでもないんじゃないかと僕は思うんです。

だから、もうちょっと具体的な、さっき言った、こういうことをしましょうとかこういうことを相手の都市と協議しましょう、協議してまとめ上げていきましょうという1つの目的がもうちょっとあれば、交渉するわけですから、その交渉の中でのいろんなものが出てくるという必然性はあるんだろうけれども、そのこのところが余り明確じゃないから、結局形として儀礼的で、儀礼的だけでいいのかなというのが先ほどからの交流のあり方というのを問うているわけで、もっと明確であれば、みんなで行って交渉しようとかということもあるんだろうと思うんだけど、長くなるから言わないけれども、儀礼的なために人数を多くして、それで経費をかけるというのはいいんだろうかなと、もっと具体的な何か都市と都市が本当に交渉できるかどうかわからないし、共同で何ができるかわからないけれども、そういうことの交渉みたいなものも含めて行くんだったら、それは議員がある程度行ったほうがいいと思うけれども、儀礼の範囲であるんだったら、僕は最小限で今のところいいんじゃないのというのが考え方ですけども、外野からの声です。

○あべ委員 私は姉妹都市交流というのは儀礼のためにあるんだと認識をしております。いわゆる姉妹都市としての都市交流の提携事業をやって、その再確認のために行くということですから、極めて儀礼的な行事のために行くわけです。儀礼のためだから行かなくていいという判断は僕はちょっと違うと。議会の議員というのは儀礼のためにまさに派遣をされて姉妹都市交流というのは行くんですよ。だから、いわゆる代表者が行けばいいんじゃないですかというお話をしているのであって、姉妹都市交流が儀礼的だからおかしいんじゃないかと、僕はそうじゃなくて、姉妹都市交流事業というのは極めて儀礼的な事業なんですよ。相手の都市とまさに姉妹都市という締結をして、その締結事業の再確認のために行くという極めて儀礼的な儀式のために行くわけですよ。ですから、私は何人もして、1人88万円もかけてぞろぞろ行くんじゃないかと、議会の代表者の議長が行けば、それは儀礼的な行事に事足りるんじゃないかとお話をさせていただいているんです。極めて儀礼的な事業だということは認識をしていただきたいと思います。

○下山委員 今のあべ委員のお話は確かに儀礼的というようなことが大分強調されましたけれども、その儀礼的な5年に1回のことによって違う年度の中学生だとかそういうことがまさしくきちっと行われる1つの前提ですから、それは儀礼的であるかもしれないけれども、やはり全体を考えれば、毎年毎年の交流が続く1つの必要事項だと私は思うんです。考え方の違いですから、それはもう本質的な違いだから、幾ら議論してもしょうがない

いけれどもね。

○あべ委員 我が言っているのは、議会として議員を派遣していくというのは極めて儀礼的な事業だと言っているんです。交流事業というのはもちろんすそ野も広くて、小学生だ、中学生だの交流も含めて、それは議会としてやるんじゃないくて、世田谷区の事業として交流事業というのはたくさんやっていると。それは別に儀礼ではなくて、草の根の交流であったり市民レベルの交流であったりということが、その儀礼的な姉妹都市の締結事業によってそれは成り立っているわけだから、我々が行って、いわゆる姉妹都市の確認の締結をしてきたり継続をしてきたりというのは極めてセレモニー、儀礼的なことをやりに行くんだということですよ。セレモニーをしに行くわけでしょう。5年に1回の姉妹都市交流の締結事業の継続を確認しに行くというのが我々の仕事なわけですよ。だから、議会の派遣として、仕事として行くということになっているんでしょう。そういう認識じゃなかったらおかしいんじゃないですか。だから、私は、極めて儀礼として行くんだから、何人もして行くんじゃないくて、議会の代表者が儀礼的に行けば事足りるんじゃないかという議論をしているんですよ。だから、今、下山委員が言われた、いろんな事業があるから、その一部なんだというんじゃないくて、議会として派遣で行くというのは、その儀礼をしに行くということの認識をしっかり持っていただきたいと思います。

○大庭委員 儀礼だけにするのか、それとも交流も含めてするのかというのはやり方一つなんじゃないんですか。だって、これは姉妹交流とここに書いてあるじゃないですか。別に儀礼的とは限定しないで、要するに儀礼も含めて何かプラスアルファをとしての姉妹交流というのがあるというふうに、今までそういう議論をしてきて、はなからこれは儀礼だという形で、単純で怒られるかもしれないけれども、要するに冠婚葬祭みたいな、葬儀で行くとか、結婚式に呼ばれたから行くみたいな、そういうセレモニー的な義理じゃないけれども、そういうことだけで議論してきたんじゃないんじゃないですか。僕はそれはちょっと確認したい。最初から儀礼だったら、それは行く必要もないという議論だってあり得るわけですから。

○山内座長 私個人で考えたのは、儀礼だけでは考えていませんし、それで皆さんこの話を積み上げてきたのであって、ここで儀礼のみとされてしまうことは甚だ私としても心外であり、いろいろな考え方があるから、それはまとめていきたいなどは思いますけれども、個人の考え方、その他いろいろあるものに関しては、今後のそういう場での話をまたつくっていく必要があると思いますし、私自身は、現在の話の進み方から言うと、あべ委

員のご意見は突発的なものだとしか考えられない。だから、それは改めてまたやる機会があればやりましょうと座長としては答えているわけでありませう。

○あべ委員 議会から姉妹都市交流の議員派遣をするというのは、議長から指名を受けて議員派遣になるんですよね。これは私費で行くわけでもないし、交流事業の1つの事業として議会派遣として議員団を組んで行くというのが通例ですよね。そのメインの仕事は何ですか。これは周年行事として行くということでしょう。周年行事というのは、姉妹都市交流事業のメインである姉妹都市交流締結をしているものを再確認しに行くというのがメインで、これはまさに儀礼じゃないですか。もちろんそのほかの向こうでレセプションがあったり、いろいろ議員の人と交流があったり、私も参加していますからそれは存じ上げていますよ。でも、基本的にメインの事業は、姉妹都市交流をしますよ、それぞれの世田谷区と相手方の都市との再確認の意味で行くというのがまさにメインの仕事なんじゃないんですか。それは仕事以外のことももちろんありますよ。でも、議長から議員団として派遣をされるというのには、それは我々は各党派で視察に行きますよというのと違うのは、議決までして行くんですよ。それはあくまでセレモニーで行くということがメインじゃないですか。それだけに特化した話だとか、それはおかしいとかということ自体が私は認識が違ふと思いますよ。認識としては、それはそうした締結事業として世田谷区と相手方の都市と締結しているものの再確認に行くというのがメインの仕事じゃないですか。そのために行くのに、ついでだからいろんな交流事業をやってきましょうと言っていることでしょう。だから、そのついでが許されるかどうかという議論をしているわけじゃないですか。ついでに視察をしていきましょうとか、ついでに何とかしていきましょうとか、何とかかんとかということが区民的なコンセンサスがとれるのかというようなことの議論をしているんですよ。問題をごまかしてはだめですよ。税金で行くんですから。

○山内座長 いや、問題をごまかしているわけじゃなくて、先ほど姉妹都市交流のみとし、視察は行わないということであべ委員からご意見をいただいておりますので。

○あべ委員 じゃ、何のために姉妹都市交流の派遣をするんですか。座長、明確にしてくださいよ。何のために姉妹都市交流の議員派遣というのがあるんですか。交流事業で行くということなんですか。メインの仕事は何ですか。メインは何の仕事のために行くんですか。

○星区議会事務局次長 議員派遣というのは、先ほどから出ているように、最終的には議長の命令というのがありますが、その前段階として議会の議決をまず経るということ

す。議会の議決を経るときに、前回のウィニペグへ行ったときの派遣目的、これは議会で議決した内容でございます。記念事業に参加し、姉妹都市との交流を図るため、これが目的でございます。

○山内座長 それでは、次に参ります。次は資料の1の(3)のその他でございます。前回は記載のとおりのご意見として出ていましたが、その他、ひし形のものですが、何かご意見がございますでしょうか。

○あべ委員 L C C .

○山内座長 あべ委員、L C C ね。ほかに何かご意見。

○羽田委員 この点は最初のところを私が多分言った話ですよ。ただ、実際に参加するメンバーとかそれによっても違って来るんですよ。若い人とか年をとっている人とか、私も年をとっていますけれども。若い人もいますから。それはその中で判断をするということも1つかなということですよ。つまり団を編成して、団のメンバーとか状況によっても違って来るんじゃないかなということはあるかと思えます。だから、余り固定的に考えないほうがいいんじゃないかなということですよ。

○中村委員 これは経費削減というのは旅行会社か何か使っているんですか。それとも普通に航空券だけとっているんですか。

○星区議会事務局次長 これまでは旅行業者を使って実施してございます。

○中村委員 では、一般的に今旅行会社を使うと、宿泊も含めて、宿泊場所は結構あれになるかもしれませんが、往復の飛行機運賃よりも今大分安く行けるじゃないですか。ということでの削減はされているという認識でいいんですか。要は88万円というのかわかりませんが、一般的な飛行機往復と比べたりとかして、それぐらい一般の旅行をされるぐらいの割安感はあるようなツアーを選ばれたりとか結構探されているんですか。

○星区議会事務局次長 これをやる時には数社の業者から見積もりをとるような形でやっております。その中で一番安い業者を選定するというところでございます。

○高久委員 あとちょっとお聞きしたいのは、早目に人数が確定して、早割とか、最終的に議決となるんでしょうけれども、早目に人数を確定して早目に中身が決まれば、その分相当安くなることは可能なんですか。

○星区議会事務局次長 どういう形の割引があるかというのは調べなければわかりませんが、今お話に出ていたように、議会の議決を経た後に正式手続に入ることになります。

ますので、その議決以降どのぐらいの期間でということになると思います。実際はこの流れでいきますと9月の議会で議決するということですから、それ以降ですと1カ月半ぐらいの期間の中での割引とかそういったものがあるかどうかということになるかと思いません。

○あべ委員 予算が88万円とっているわけですが、毎回それよりは少し安目で落札した業者さんをお願いしているという経緯はあると思うんですが、ただ、個人で行くよりはかなり経費は高いですね。その原因は何でコストが高くなっているんですか。

○星区議会事務局次長 まず個人で行く場合と議員団で行く場合の違いは、正式に向こうに行った場合に通訳等を雇い上げるとか、そういった経費も含めてということになりますので、そういった部分はプラスになってくるということです。

○あべ委員 そうすると、例えば10人とかという人数で行ったり8人なのか何人なのか知らないけれども、人数が多ければ通訳さんの代金というのは頭数で割るから安くなってくるんだけど、基本的には1人とかとなると高くなるわけだよね。そういうことですか。

○星区議会事務局次長 おっしゃるとおりです。

○山内座長 それでは、大体ご意見が出たようで、座席については、団がもし編成されたのであれば、団で議論していただく。また、経費については……。

○中里委員 今の話で通訳ですけれども、世田谷区は随分職員もいますし、国際的な活動もやっているのだから、職員でできるとかそういう可能性はないんですか。

○星区議会事務局次長 当然その国によって母国語も違います。確かに職員を連れて行って、職員がすべて対応できるかということになると、あとは行政的な言葉はなかなか一般にはわかりづらい部分もあるので、やはりどうしても通訳の方のほうがいいということでやってはございます。

○山内座長 それでは、座席に関しては、団が結成された場合には議論していただくということで、なお、旅費等については極力縮減する、また、これはもういろいろな腕にかかってくると思いますけれども。

○あべ委員 その縮減するというのはどういう縮減をするんですか。何か前回より何%下げるとか、数値目標もないんですか。言葉だけ縮減だということでおさめるにはちょっと、金額は数値的な問題ですから、前回よりどれぐらい下げるんだというような意思表示もこの中でしないと、私はすごくあいまいな話だなと思うんですね。例えば10%削減する

とか、何か数値目標みたいなものを決めたほうがいいんじゃないですか。

○山内座長 交渉事でもありますし、またその時の状況によって燃油サーチャージが違ったりしますので、一概にパーセントを出すというのは私としては困難ではないかなと思っております。しかし、言葉としてこれだけでは納得できないということも考えますけれども、しかし、これはやはりある意味では時間があり、そのときの経済状況、いろいろなものを含めて交渉にかかってくると私は思っております。

○あべ委員 そういう申し入れをしておきますから、あくまで公費というのは区民の税金で行くわけですよ。だから、例えばなるべく経費をかけずに行きましょうという話が出ているのであれば、前回よりどれぐらい削減して行くんだとかということも明確にすべきだと僕は思います。だから、そういうことを考えてしっかり、議運に上げるんでしょうけれども、その中でも、例えば5%でもいいですよ。10%でもいいですよ。どれぐらい削減をするということの努力目標なり何なりをちゃんと掲げていただきたい。区民にかわって申し上げておきます。

○高橋委員 議決が9月じゃないとできないんですか。これは例えば何とか経費を削減するために、こちら側の人数だとかそういうのを工夫して早目にできるのであれば早目の議決をして見積もりをとれば、それで安くなるのであれば、それも努力なのかなと僕は思うんです。意見として申し上げますけれども、わかるのでしたら。

○星区議会事務局次長 この研究会でもお話しさせていただきました。まずこの研究会でこれをどういうふうにとめるかというのが1つです。この研究会でまとまれば、次に、先ほどもお話が出ていましたけれども、理事会、議運にお話を持っていくと。最終的に議運の決定をとった上で団を結成するという事になれば団を結成し、中身について議論をし、その中身が確定した段階で議決を経る、こういう手続をとると、今までの例でいくと9月ということでございます。ただ、これが時間を短縮できるということであれば、6月にやれないということはありません。

○山内座長 それでは、ただいまいろいろご意見も出されました。姉妹都市交流事業に関しては議会運営委員会へ当研究会案を正副座長として作成いたしますので、次回の議会制度研究会の場でその内容について皆さんに協議していただきたいと思っております。

ここで50分まで時間をとりまして、その後、続けるということにいたします。

[休憩]

○山内座長 それでは、再開いたします。

それでは、広報についてを議題といたします。

まず、区議会ホームページの改善についてを議題といたします。区議会のホームページの議員紹介画面にホームページアドレスを掲載する方向で前回の研究会はまとまりましたが、研究会に参加していない会派の意見について事務局より報告をお願いいたします。

○星区議会事務局次長 非交渉会派の方々に意見を聞きましたが、特に反対の意見はなかったということでございます。

○山内座長 それでは、前回の議論の結果は、区議会ホームページの議員紹介画面から直接展開せず、注意喚起の画面を設けるという内容でした。そちらの注意喚起の文言等を正副座長案として作成したので事務局に説明をしていただきます。

○星区議会事務局次長 資料5をごらんください。今お話がございましたように、区議会ホームページの改善についてということで、議員紹介画面のホームページアドレスの記載ということでございます。主旨については省きます。

2に記載内容とページ展開ということになってございます。区議会ホームページからこの2の(1)、(2)、(3)での画面展開により議員、個人または会派のホームページを見ることができ、こういう形にするものでございます。

まず(1)でございます。これは区議会ホームページのトップページから入りまして、区議会議員の紹介画面に入ってください。そこに記載凡例ということで、議員個人のところに「ホームページ」を記載するというようにしています。

②に議員の連絡先欄の一番下に「ホームページ」と追記を行います。そこをクリックしていただきますと、次の(2)注意喚起の画面にまず展開します。ここでは区議会ホームページの管理外である旨を表示するということです。

内容につきましてはちょっと読み上げます。この画面の中の内容でございます。議員個人または会派のホームページをごらんになるには、下記URLをクリックしてください。括弧書きで、議員個人、または会派のホームページが別ウインドウで開きます。なお、ここから先のページは議員個人または会派の責任において運用しております。ご了承の上、お進みください。

その下に議員のホームページ、または会派のホームページという名称のもとにそのURLを記載すると。そこをクリックしていただきますと、(3)に表示になっていますが、議員個人または会派のホームページが別ウインドウで開く、こういう形で考えているものです。

○山内座長 ご意見がございましたら。

○中村委員 ありがとうございます。1点だけ。これは会派のホームページというのは、議員個人のホームページのところに会派ホームページもあわせて載せられるのか、どちらか1個を載せるのか、それとも会派の一覧で会派のホームページが全部出てくるようなページもあるんですかということだけお伺いしたいんです。

○星区議会事務局次長 現在の区議会ホームページからは、議員個人もしくは会派のほうには全然飛ぶことはできないということです。ここで最終的には議論になるんですが、両方載せるというつもりではつくってございません。議員個人もしくは会派のホームページに飛ぶようにするという事ですから、そういうことです。

○あべ委員 ちょっと確認ですけれども、というのは、こういうふうに2段構えにしているというのは、個人のホームページを持っていない人もいるということの認識でいいんですか、そういうふうに僕は解釈したんですけども、違うの。

○星区議会事務局次長 多分この前の議論の中でそういう議論が出ていたと思います。

○山内座長 それでは、区議会ホームページの改善に関しては、研究会に参加していない会派の意見も聴取した上で議会運営委員会への当研究会報告案を正副座長で作成し、次回の議会制度研究会の中でその内容について皆さんに協議していただきたいと思います。

次に、インターネット領収書公開での1円以上での領収書添付の取り扱いについてを議題といたします。本件は前回の研究会では現行どおりにするという事でまとまりましたが、研究会に参加していない会派の意見について事務局より報告をいただきます。

○星区議会事務局次長 非交渉会派の方々にご意見を伺いましたが、特に意見はございませんでした。

○山内座長 では、そのように。それでは、インターネット領収書公開での1円以上の領収証添付の取り扱いについては現行どおりとすることでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○山内座長 それでは、そのように決定し、議会運営委員会に報告することといたします。

次に、本会議の動画中継を議題といたします。本件については、前回の研究会ではマックユーザーでも視聴が可能になったことが報告されましたが、共産党さんのほうからの提案により、ケーブルテレビ放映にかかる経費や加入状況を調査することとなっております。調査結果について事務局より説明をいただきます。

○星区議会事務局次長 資料6をごらんください。ケーブルテレビでの区議会中継についてということで、1としまして、世田谷区内のケーブルテレビのサービス状況ということで、前回もこれはご報告していますが、区内においては現在2社のケーブルテレビ事業者がサービスを提供しているとおおむね区の北半分がジェイコム、南半分がイツコムがカバーしているという状況で、これは裏面に見やすく線をつけてございます。ごらんください。

表に戻っていただきまして、前回はその加入率はどうなんだというお話がございました。加入率につきましては概算値ということで24.7%ぐらいの加入率だろうと。ただし、これは事業者からの聞き取りなどをもとに事務局が算出したということでございますので、正確なものではないので、これはご承知おきください。

3として、導入費用でございます。導入費用につきましては生放送と録画放送ということで分けてございます。生放送の場合ですと、これはあくまでもイツコムで放送した場合ということで、概算という形でとったものでございます。生放送としてやった場合、7000万円程度かかってしまう。録画放送としてやった場合ですと1400万ということになってございます。これは今言ったようにイツコムだけでございますので、ジェイコムもということになると、さらに金額はかさむという状況です。

○山内座長 それでは、ご意見がございましたら。

○中里委員 調べていただきましてありがとうございます。予想以上にコストが高いんだなということですがけれども、今後こういう導入コストが下がってきたら、また考えるということで、今回は皆さんの同意が得られそうもないので取り下げます。

○山内座長 それでは、本会議での動画中継については現行どおりとすることでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○山内座長 それでは、そのように決定し、研究会に参加していない会派の意見も聴取した上で議会運営委員会の研究会報告案を正副座長で作成し、次回の議会制度研究会の場でその内容について皆さんに確認をしていただきたいと思います。

次に、委員会の動画中継を議題といたします。前回は実施に向けた手法の検討から始めてみる。発言時間の公平性の担保が必要、慎重な議論が必要などのご意見がございました。これらの意見を踏まえ、各会派の意見を持ち寄っていただくことになっておりました。なお、研究会に参加していない会派からの意見が出されたようなので、事務局よりま

ず報告をいただきます。

○星区議会事務局次長 虹の上川議員からの意見でございます。区議会が区民に約束する動画の配信期間、例えば1週間などが担保できない限りユーチューブ等を利用した動画配信は実施すべきではない、こういったご意見でございました。この配信期間が担保されなければ実施すべきでないということです。というのは、例えば1週間は間違いなく放映しますよというようなことが担保されなければという意味なので、今の状況ですと、相手の会社側で自分のところで落とすというようなこともあるようなことも聞いています。多分そういったことが不安定ではやっぱり実施すべきではないんじゃないのというような意見だったろうと聞いています。

○山内座長 それでは、各党派のご意見をいただきたいと思います。では、自民新から。

○山口委員 自民新は前と変わりなく、やっぱりもう少し慎重に扱うべきということです。情報公開というあれからはいいのかもしれないですけども、ただ、やはり質問をする、今中継しているのは個人1人当たりの時間ははっきりしていますし、その辺がやっぱり担保されていないのと、どういう映り方をするかというのも問題がありますし、その辺をやっぱりもう少し勉強するなり調査しないと、今の段階では時期尚早ということで賛成しかねるということです。

○山内座長 では、公明さん。

○高久委員 では、私どものほうも、委員会の動画中継ということで、今の予算決算特別委員会のように時間がしっかり決まっているものであれば今できるわけですけども、なかなかこの常任委員会、特別委員会は時間制限もないので、やはり延々と続く可能性もありますし、そういったときの時間配分のあり方というのは非常に、それを意図的に使う議員もいるかもしれませんし、そういった角度から、もう1回委員会動画中継をするに当たっては、委員会の発言時間のあり方とか発言する時間をどういうふうに制限するとか、そういったところまでしっかりもう1回話し合わないと、いきなり動画中継をスタートするとなると非常に混乱を来すので、もうちょっと慎重に考えた上でやるべきじゃないかなと思って、今の段階ではちょっと時期尚早だと思っております。

○山内座長 生ネ社。

○羽田委員 情報公開という立場からは基本的には賛成なんです。ただ、今日的な状況を考えて場合にいかなものかなということです。それはどういうことかという、委員会の傍聴だとか資料の配付のあり方とか、この間も我々から申し上げますけれども、そ

ういったことを改善するということが前提にあるべきではないか。したがって、現状では見送る必要があるかなというところですよ。

○中里委員 私たちは、公開を進めるという立場から、まずは簡単なやり方で固定カメラでも何でも工夫しながら進めてみるべきではないかなと思います。質問時間の問題であるとか区民からどういう反応があるかというのはやりながら議論してということで私は思いますよ。まずはやってみることだと思います。そうしないと、問題もよくわかってこないんじゃないかなと思います。

○大庭委員 当然やるべきだと思うんです。それはそういうふうには主張でしているんですけども、その意味では、別に自民新さん、公明さん、生ネ社さんも同じスタンスじゃないかなと思うんです。要するにいきなり始めるといっても、例えば今共産党さんが始めるにしたって、その前にいろいろ決め事を精査しなくてはいけないわけじゃないですか。いきなりカメラを入れようといったって、入れるにしたって、それはどうするの、角度はどうするのという議論を1つ1つつぶしていくというか、議論をこなしていかなければいけないわけじゃないですか。だから、そのこなす議論から始めましょうということ。だから、自民党さんが慎重だというのはいいですよ。慎重に議論から始めましょうということですよ。それで、何がネックになっているのか、そういう議論すべき課題をまず挙げられるようにもうちょっとしましょうと、そこからしないと、何もやらないで慎重にしましょう、慎重にしましょうじゃなくて、少なくとも議論を何が問題なのか、それは質問時間だとか発言のあれだとか、そうすると、委員長の仕事はどうなるのか、いろいろあるだろうし、いろんなことも関連してくるわけだから、それを慎重にやりつつも具体的に議論を始めましょうよということであって、やろうということに関しては前向きだけれども、否定はしないかもしれないけれども、議論もしないというんだったら何も進まないから、要するに僕たちも含めてこういうことはなかなか前代未聞というか初めてやることですから、それについていろいろ議論を具体的にしましょうよというところから始まるんじゃないですか。いきなりあしたから、何月何日からカメラを入れてやりますよといったって、それは多分現実的じゃないだろうから、議論を始めませんかということですよ。それで、懸念の部分だとか、これがいいだとか悪いだとかということの議論をしないことには、またはカメラの角度とか映るのか、または何で配信するのかということもあるだろうし、先ほど上川さんの言っているのも、そんな議会中継みたいなものが落とされるということはないんだと思うんです。公序良俗に反するものとか非常に偏ったものについてはユーチュー

ブあたりでは規制がかかるというのはあるのかもしれないけれども、あれは多分時間制限をかなり長くとるものについては特別な申し込みの仕方があるはずなんですよ。2時間とれないはずですから。だから、それはその中でチェックできるので、そういうのも実際やってみないと、ユーチューブで配信できるのかできないのかということもわからないから、あらゆるものがわからないだけで今いるんじゃないじゃなくて、少しずつ議論を前に進めましょうということから始めないと、それはいきなりカメラを入れてどうのこうのということを行っているわけじゃなくて、それなりの議論が前提としてあって、それでやっていくということですから、その意味で僕は、自民新さんとか公明さんとか生ネ社さんとも同じ考え方じゃないかなと。だから、それは時期の問題は議論が当然済んでからということにはなりますよ。僕はそんなにずれていないと思うので、絶対的に嫌だ、やめるべきだということであれば、それは意見の違いがあるのかもしれないけれども、そうでない限りは、議論をとりあえず始めようよ、僕たちもそういうのはよくわからないしということなので、座長のほうの取りまとめをお願いできないかなと思っています。

○中里委員 余りとりあえずやれみたいな乱暴だというのは、確かにとりあえずやるにしたって議論は必要ですよ。何をどうやるのかということは必要なのですから、やるという方向で議論を始めるといえるのはおっしゃるとおりだと思います。

○中村委員 懸念は全く皆さんと一緒にだし、そこも含めて今の大庭さんのお話には全く異論はありません。

○あべ委員 情報公開ということでは、委員会の中継に関しても議会としては検討していくべきだと私は大体皆さんと同じ考えです。

それと、具体的に役所も新規事業をやろうと思ったら、まずは調査をかけて基本計画、実施計画というふうになっていくわけですから、まずはどういうタイムテーブルをつくるのかということから作業に入っていて、将来的に、例えば来年度でもいいですし、再来年度でもいいから、目標を立てて、いつごろまでに委員会に関しても情報公開、中継をやっていきたいと思いますということを議会内でのコンセンサスとしてまずはとっていくことが私は大事なかなと思います。きょうはやるやらないという話でしょうから、とにかくその入り口で、将来的にはそういうことも含めて検討していくというような意見でいいのかなと思っています。とりあえずはその条件整備をどういうふうに行っていくのかということの議論に入っていく必要があるんじゃないかなと思います。

○山内座長 ありがとうございます。前回の話からだんだん修正されてきたような気がし

ますし、皆さん慎重に取り扱ってほしいというようなご意見だったと思います。それをやるにしてもやらないにしても、皆さんのご意見がまとまった時点で考えていくというような方向ではないかと私は考えます。

一応この研究会においては2回ぐらい話をしてまとまらない、実際はこれはまとまったのかもしれませんが、検討課題として、後送りというのは本当はいけないとは思いますが、まだほかにも議題としてたくさんありますので、時間がありましたらそのときにまた議題として取り上げてやっていくべき議題だと思いますし、各会派でこのことについて研究なり進めていっていただきたいと思います。一応今回の仕切りとしては継続というような形で取り仕切らせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。大庭委員、よろしいですか。

○大庭委員 継続というのは、ある時期が来たら、こういうことなんだけれどもとか、こういうことがあるんだけれどもだとか、途中で入れ込むことは可能だということでもいいですか。

○山内座長 可能だと私は思います。

○大庭委員 さっき座長が後送りと言ったから、一番最後に送っちゃったというんじゃないかと、途中でやっぱりこうじゃないのとか、こういう形でうちは考えたんだけれどもという途中で差し挟むということはやぶさかではないと。

○山内座長 ではないかなと思います。

○大庭委員 わかりました。

○山内座長 では、そのように取り仕切らせていただきます。

それでは、資料配付について、前回に引き続き議会基本条例に関する資料として議会改革リポートを配付しております。引き続き各委員で研究を進めていくようお願いを申し上げます。

次に、その他に入ります。資料4をごらんください。次回の議研では、広報と姉妹都市交流について、続く次のテーマを考えなければならないと思います。一覧表がここにあります。資料4としてついておりますが、その中でこれを検討したいという項目がございましたら、次回、次の検討テーマを会派内で協議した上でご参加してくださるようよろしくお願いいたします。

○中村委員 次回この中で何をやるかを持ってくるんですか。では、次回は何をやるんですか。それを決めるだけですか。

○山内座長 それを決めることと、それからきょうの結論をきちっと出さなければならぬので。それで、その次の研究課題。いろいろあると思いますので、持ち帰ってお話をしてくてください。

それでは、時間的に15分余分にとってしまいましたけれども、次回の研究会の日程を協議したいと思います。前回は4月25日の10時を予定として確認していただきましたが、確認どおり4月25日午前10時から開催することよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○山内座長 それでは、そのように決定いたします。

5月はどうかな。5月24日、25日、30日あたりで皆さん、いかがでしょうか。

[日程調整]

○山内座長 それでは、次々回の委員会は5月30日水曜日、特別委員会の後の午後1時から開会したいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

大変長くなりまして皆様方に大変ご迷惑をおかけいたしました。

以上で議会制度研究会をこれで終了させていただきます。どうもありがとうございました。